

第41回 介護・医療連携推進会議報告

令和8年4月20日

ケア・オフィス 優 (介護看護課)

管理者 二丹田 早稲子

<出席者>

小樽市福祉保険部 介護保険課	渡部 香織 様
南部地域包括支援センター	永原 由紀 様
中部地域包括支援センター	武本 真弓 様
東南部地域包括支援センター	石ヶ森 寛 様
北西部地域包括支援センター	川崎 里美 様
ケアプランセンターきりん	佐藤 愛友 様
ケアプランセンターきりん	三浦 朋恵 様
ケア・オフィス 優 管理者	二丹田 早稲子
ケア・オフィス 優 計画作成責任者	川村 光加
ケア・オフィス 優 事務職員	齋藤 智世

§ 新年度のご挨拶 §

当事業所は今年2月16日で開設17年目を迎え、本事業の開業からは4月で14年目を迎えます。

今までのご利用者様は計150名に達しました。

役員の皆様には、事業展開へのご協力やご支援を頂き、誠にありがとうございます。

さて、兼ねてから本社との吸収合併に際しまして、都度、経過をご報告させて頂きましたが、再三の協議の結果。要望の合意には至らず、R8.1.16株式を全て買い取りました。

会社名、事業所名など何も変更はありません。今まで沢山のご心配やご迷惑をお掛けしましたが、今後も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

：報告および症例報告

1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス 集計報告

① R7年10月～R8年3月集計 (別紙参照)

② ・新患→1名

・終了者→4名 (入院2名、入所1名、自宅看取り1名)

現在の利用者人数 6名

③ 疾患の別

・大脳皮質基底核変性症 ・アルツハイマー型認知症 ・糖尿病 ・肺がん (末期)

・進行性核上性麻痺

④ 現在のエリア 祝津、住ノ江、若松、勝納、最上、望洋台

⑤ 利用者1人の1日の訪問回数 1回～4回

⑥ 1回のサービス提供分数 20分～45分

2. 定期巡回サービス内容報告→定期訪問

① 排泄介助 (オムツ交換)、トイレ介助、陰部洗浄

② 軟膏やローション塗布

- ③ 血糖計測やインスリンの声掛け
- ④ 買い物、調理（ミキサー食含め）
- ⑤ 食事および水分介助
- ⑥ 内服介助（配薬）、確認
- ⑦ 更衣介助、シーツ交換、洗濯、掃除、ゴミ分別などの生活支援
- ⑧ 洗髪、清拭、足浴
- ⑨ モーニングケア、口腔ケア、就寝介助、整容介助
- ⑩ 移乗、移動介助
- ⑪ デイサービスやショートステイの準備

3. 随時対応サービス内容報告→コールでの対応
 随時訪問サービス内容報告→ヘルパーの予定外訪問
 訪問看護緊急対応内容報告→看護師の予定外訪問 いずれも対応なし

4. 問い合わせ状況
 なし

5. 現状報告

☆動向

現在のご利用者は当社利用期間が長期の方のみ（平成 31 年開業当初の 8 年～8 か月）
 この半年、新患 1 名でご利用期間が 1 か月（在宅看取りのがん末期の方）
 半年前には満員でお断りしていた状況の為、今後も利用者の波があるサービスと考える
 現在、枠的に余裕があるため、宣伝活動をしていく方向
 → 直近で新規利用者 1 名サービス開始。
 買い物、調理等含め食事に問題があり、体調整うよう支援実施。

☆利用者様のコールについて

3月31日、3Gサービス（FOMA）が終了となり4Gで契約はしていたが、4月1日よりインターネット障害により繋がりません、のガイダンスが流れ使用不可となっている。

コールを押せるご利用者には、ご家族含めて説明を行い、ご自身の携帯電話を利用了承を得ている。
 スムーズにコールが出来るように下記の対策を実施

- ① 携帯電話のらくらく機能「緊急電話」として登録（掛ける練習を実施）
- ② ご家族には電話ができる方には、ご家族へ緊急電話番号を登録して頂き、ご家族から当社へ連絡をして貰う様ご依頼
- ③ ご自宅の電話付近に緊急電話番号を明記

※今後、新規ご利用者には契約時にご自宅やご自身またはご家族の方の携帯電話での通報をお願いし、
 家電や携帯電話がないなど、現状では通報が出来ない方に対しては新たに携帯電話を契約して貸与する方針

☆職員の現状

1 月末で看護師 1 名が退職

（サービスの支障は出ておらず、現スタッフで訪問は可能な状況）

→ 1 名の採用が決まり、5 月中旬より勤務予定。

6. 症例報告（以前、症例相談をさせて頂いた事例） スライドにてご紹介

※要介護5 女性 82歳 独居 神経難病にて寝たきりの状態。会話は不可で寝返りも出来ない。

週に1度デイサービスを利用中。

当社サービスを1日4回利用（1回概ね45分）

食事は全介助。

この度、カンファレンスにて訪問リハビリより、らくらくゴックンを勧められ購入。

デイサービスで試して頂き、使い勝手は良好との事。

服薬も水分の全て（1パック300ml）に混ぜていた様子。美味しくないと、スプーンでの介助を依頼。これは対応可能だったので継続を依頼。

*各サービスの対応方法や意向を知ることによって多職種が知恵を出し合い、良い結果に繋がった。以前、カンファレンスの実施を指摘されて以降、長期目標見直しの時期にはカンファレンスが実施されている。

→車いすへの移乗方法や食事の様子をスライドにて説明し、使用しているらくらくゴックンや舌で簡単につぶせる介護食などを実際に見ていただき、事例について紹介実施。

7. その他

皆様からのご意見などがございましたら、お願いいたします。